

北九州市立学校の校長及び教員としての資質の向上に関する指標（案）

資質		ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4
		【教職準備期】	【教職基礎形成期】	【教職資質向上期】	【教職資質充実期】	【教職資質発展期】
		教職現場での実践的課題を見直し、求められる資質の基盤を形成する。	チーム学校の一員として学級担任や教科担当を担う。	指導力を発揮し、ミドルリーダーとして学校運営に参画する。	高い指導力を発揮するとともに、重要な校務分掌の責任を担い、学校運営を推進する。	高い指導力や豊富な経験を生かし、学校運営を推進する。(教諭等) 豊富な経験を生かし、広い視野で組織的な学校運営を行う。(管理職)
教職の素養	A 豊かな人間性	法令やマナーについて理解し、基本的なコミュニケーション力を身に付けている。	教育公務員として法令を遵守し、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーション力を身に付けることができる。自己実現を目指し、学校外の事にも目を向けながら社会性を磨き、幅広い教養を身につけ、業務改善、ワーク・ライフ・バランスの視点をもちながら、教育活動を展開することができる。			
	B 使命感	教育公務員の使命を理解している。	教職への高い使命感、北九州市への深い理解、社会の変化に対応しながら新たなことに挑戦する姿勢をもち、熱意をもって教育活動を展開することができる。			
	C 人権尊重の精神	人権尊重の精神に基づき、人権に配慮した行動をとっている。	人権尊重の精神に基づき、高い人権感覚をもち、児童生徒、教職員、保護者や地域との信頼関係を構築することができる。			
	D 学校組織の理解と運営	学級担任の役割、学校組織、協働性の意義を理解している。	チーム学校の一員として、学校経営方針に基づいた学級経営の方針を立て、指導することができる。学級事務を正確・丁寧に扱い、効率的に処理することができる。	ミドルリーダーとして、学校経営方針の実現に向けて学校運営に参画することができる。学級事務について、他の教職員に範を示すことができる。	学校運営におけるリーダーとしての役割を自覚し、学校経営方針の実現に向けて学校運営を推進することができる。学級事務について他の教職員に指導・助言を行うことができる。	
	E 自己啓発人材育成	生涯にわたって自ら学び続けることの意義を理解している。	OJT、校外研修、自己啓発を通して、自己の実践力を磨くことができる。	自らも学び姿勢をもちメンターとしてメンティーの課題や悩みに気付き、支援するとともに、支え合える環境づくりに努めることができる。	自らも学び続けながら、自己の経験や専門性を生かし、他の教職員を支援することができる。	
	F 危機管理	様々な問題事例を通して危機管理の重要性を理解している。	問題発生時、迅速かつ適切に対応することができる。安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に行うことができる。	組織の一員として連携しながら危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。	学校全体での情報の共有を推進し、危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。	
	G 保護者や地域との連携	保護者や地域との信頼関係の構築等、連携することの重要性を理解している。	保護者や地域との信頼関係を築き、連携することができる。	自分より経験の浅い教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	他の教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	
学習指導	H 授業構想 授業展開 授業評価・改善	児童生徒の実態把握の必要性や学習指導要領、指導技術の基礎を理解している。 授業参観の在り方や、授業者の発問の意図、児童生徒の反応のとりえ方を理解している。	児童生徒の実態を把握した上で、学習指導要領の理解に基づき、指導と評価の計画を立て、指導技術の基礎及び応用を踏まえた授業をすることができる。 自身の授業を振り返り、課題をつかみ、改善に生かすことができる。 優れた授業からよい授業のイメージをもつことができる。	教材研究を通して目指す児童生徒の像をイメージし、指導と評価の一体化を想定し、児童生徒の実態に応じた発展的な授業をすることができる。 適切な授業評価を行い、さらなる授業力の向上を図ることができる。 優れた授業からよりよい授業のイメージをつくることができる。	学校経営方針に基づいたカリキュラム・マネジメントを行い、授業に臨むことができる。 児童生徒の実態に応じたより発展的な授業をすることができる。効果的な指導法の情報や実践を他の教員に発信することができる。 主題研究推進の中核として、自校の課題を明らかにし、全職員の授業力向上を推進することができる。	
	I 学級経営・生徒指導	児童生徒理解の意義や方法、個や集団を指導するための手だてを理解している。	学級一人一人の背景を意識した学級経営を行うことができる。 児童生徒に寄り添い、保護者や校内組織等と連携し、生徒指導を行うことができる。	学年の児童生徒を取り巻く環境を的確にとらえた児童生徒理解ができる。 学年全体、学校全体の動きを考え、早期発見・早期対応に努め、生徒指導を行うことができる。	学校全体の児童生徒の状況を教職員相互で共通理解できるように働きかけることができる。 学年・学校内における諸問題の未然防止に努め、管理職及び校内組織との情報の共有を図り、適切な生徒指導を推進することができる。	
J 特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応	特別な配慮を必要とする児童生徒の特性や支援の意義を理解している。	個別の指導計画等に基づき、児童生徒の特性や実情を踏まえた個に応じた学習上・生活上の指導及び支援ができる。	組織的な連携のもと、個別の指導計画等の改善・充実に努め、個に応じた適切な指導及び必要な支援の工夫ができる。	主体的に関係機関等との連携や校内での連絡調整を図るなど、学校全体での指導及び支援を主導することができる。		
K ICTや情報・教育データの利活用	授業や校務へのICT活用に必要な操作方法及び情報活用能力・情報モラルの育成の意義や効果を理解している。	ICT活用や教育データ活用に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、各教科等の特質や学習過程を踏まえてICTを日常的・効果的に活用して、授業を展開することができる。 児童生徒の情報活用能力を育成するとともに、情報モラルについて指導することができる。				

管理職の指標は、北九州市立学校の校長及び教員としての資質向上に関する指標「ステージ4（管理職）」を参照

別表 (案)

資質		ステージ4 (管理職)		
		副校長・教頭	校長・園長	
教職の素養を支えるマネジメント	A 豊かな人間性	自ら法令遵守の精神の範を示すとともに、他の教職員に指導することができる。 業務改善、ワーク・ライフ・バランスの視点を持った職場を実現することができる。		
	B 使命感	教職への高い使命感、北九州市への深い理解、社会の変化に対応しながら新たなことに挑戦する姿勢をもち、熱意をもって教育活動を展開することができる。		
	C 人権尊重の精神	人権尊重の精神に基づき、高い人権感覚をもち、児童生徒等、教職員、保護者や地域との信頼関係を構築することができる。		
	チーム学校・園を支援するマネジメント	D 学校経営課題設定・解決	学校経営課題設定	様々なデータ等を収集・分析するなど、アセスメントをもとに学校全体の状況を把握し、校長を補佐して教職員を指導することができる。 学校教育目標に基づき、進展状況を把握し、計画を進めることができる。 学校の中・長期的な学校経営ビジョンを策定し、校長に提案することができる。 次年度の学校経営に生かすために成果と課題を明確にし、校長に進言することができる。
			学校・園組織の理解と運営	様々なデータ等を収集・分析するなど、アセスメントをもとに学校・園内外の状況を大局的・多面的・多角的に把握し、中・長期的な学校・園経営ビジョンを明確に打ち出し、教育委員会と連携しながら対応策を講じることができる。 課題解決に向けて進展状況を把握し、必要な指導・助言を行うことができる。 成果と課題を把握し、次年度の学校経営に生かすことができる。
		組織管理・運営	学校・園教育目標達成のために、一人一人の教職員の能力と役割・健康状態・働き方等を把握・理解し、心理的安全性のある協働的な組織運営について進言し、推進することができる。 チーム学校による組織力を高めるために、学校の職員・多様な専門スタッフや保護者・地域・関係機関等の強みを生かし、組織運営を推進することができる。 人権の尊重や生徒指導について、問題事象の未然防止を含め、計画的に行うための情報収集に努め、組織運営を推進することができる。	
		学校事務財務管理	学校に係る事務及び対外的な事務を、効率的に処理させ、常に点検することができる。 必要な予算の確保及び執行を確認し、適切な処理が行われるよう、点検することができる。 効果的な事務執行に向けて、校長を補佐し、適切に報告することで改善に努めることができる。	
		E 自己啓発・人材育成	人事管理・育成／服務管理	自らも探究心をもって学び続け、校長を補佐して教職員の資質・能力や意欲の向上と学校の活性化を図ることができる。 教職員の模範となるとともに、校長を補佐し、教職員と十分なコミュニケーションをとり、児童生徒への関わりについて把握し、校長へ報告するとともに、全体に指導・助言することができる。 教職員一人一人の個性・特徴やキャリアステージを的確に把握し、面談等に基づいた適切な人事評価及び校内人事について校長を補佐することができる。 ミドルリーダーの適性を見極め、校務分掌が円滑に遂行できるように指導・助言し、業務に対する意欲を高める中で、女性活躍を推進する視点を持ち、次世代の管理職を育てることができる。
			危機安全管理	児童生徒等の安全・安心、学校・園の危機管理について学校・園体制を整備するとともに、保護者や地域・関係諸機関との協力体制を確立できる。 管理体制を把握し、緊急の場合に、対応方針に基づいて、適切に教職員を動かすことができる。
	F 危機安全管理	危機安全管理	児童生徒等の安全・安心、学校・園の危機管理について学校・園体制を整備するとともに、保護者や地域・関係諸機関との協力体制を確立できる。 管理体制が十分であるか常に状況を把握し、緊急の場合に適切に判断し、対応方針を示すことができる。	
G 保護者・地域等の連携		校長を補佐しながら学校・保護者や地域・関係諸機関と連携・協働し、学校力向上に努めることができる。 校長を補佐して学校内外に対して説明責任を果たし、情報を発信することができる。		
学習指導	H 授業構想 授業展開 授業評価・改善	社会に開かれた教育課程の理念の下、カリキュラム・マネジメントを行うことができる。 PDCAサイクルに基づく全校体制による校内研究等を通して、教員の授業力の向上を図ることができる。		
		生徒指導	I 学級経営・生徒指導	教職員相互で児童生徒等の状況を共通理解できるように環境を整えることができる。 諸問題に対する未然防止対策を講じるとともに、様々な関係機関等と連携した生徒指導を行うことができる。
特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応	J			関係機関等との連携を確立・強化し、組織的な児童生徒等の理解及び個に応じた指導・支援を推進できる。
		ICTや情報・教育データの利活用	K	ICT、情報・教育データ等を組織的に管理し、ICT活用の推進体制を整備することができる。

※幼稚園においては、「児童生徒等」に「幼児」を含む。また「学習」「授業」は「保育」、「生徒指導」は「幼児理解」とする。